



LEXUS TEAM LeMans ENEOS

2015年 SUPER GTシリーズ

第5戦 レースレポート



開催日	予選：2015年 8月 29日(土) 決勝：2015年 8月 30日(日)
サーキット	鈴鹿サーキット (1周5.807km)
決勝レース 周回数	163周 (946.541km) (決勝予定周回数173。18:25の決勝レース制限 時間にてレース終了)

ドライバー	大嶋 和也 / 国本 雄資
順位	予選：15位 / 決勝：リタイア
シリーズ ランキング	大嶋 和也：10位 / 19ポイント (今回0) 国本 雄資：10位 / 19ポイント (今回0) チーム：11位 / 27ポイント (今回0)

■不運の連続に苦しめられた週末、鈴鹿1000kmは悔しいリタイアに

前戦の第4戦富士ではアクシデントによって13位フィニッシュとなり、今季初めてノーポイントに終わったLEXUS TEAM LeMans ENEOS。それだけに是が非でも挽回をと臨んだ第5戦、シリーズ最長の戦いとなる伝統の鈴鹿1000kmだったが、土曜の公式練習では好調なスタートを見せるが、予選～決勝と予想外のアクシデントやトラブルに苦しめられた結果、ENEOS SUSTINA RC Fは、残念ながら今シーズン初となるリタイアを喫することとなった。

予選 (天気：曇り / コース：ドライ)

曇り空の下、気温24℃、路面温度25℃と予想以上の涼しさとなった土曜午前の公式練習。夜半に降った雨の影響で黒く湿った路面が残る中、ENEOS SUSTINA RC Fはセッション序盤、大嶋が各種タイヤの皮むき作業を行ってからのセットアップの確認などのメニューを消化。GT300のクラッシュによる赤旗中断を挟んで、引き続き大嶋が周回を重ねる中で午前10時05分には1分49秒125と、その時点でのトップタイムを刻むなど、ENEOS SUSTINA RC Fは順調に速さを見せる。2回目の赤旗中断後は、国本がステアリングを握ってフィーリングをチェックし、ラスト10分間のGT500専有時間帯にもシケインでバランスを崩しながらも1分48秒991をマーク。満を持してQ1に臨んだLEXUS TEAM LeMans ENEOSだったが、Q1を担当した国本が計測2周目のS字コーナーでまさかのコースアウトを喫してしまう。ここで赤旗が提示され、その原因となったENEOS SUSTINA RC Fはその後のアタックが許されず、決勝は15番グリッドからのスタートとなってしまった。

決勝 (天気：雨～晴れ / コース：ウェット～ドライ)

夜半から断続的に降る雨の影響でセミウェットとなった決勝日の鈴鹿。1000kmの長丁場の戦いを前に、午前11時08分から20分間のウォームアップでコースインしようとしたENEOS SUSTINA RC Fだったが、国本がピットアウトしようとしたところでミッションに予想外のトラブルが発生してしまう。チームは必死の修復作業を行い、なんとかピットスタートでENEOS SUSTINA RC Fを決勝に送り出すことに成功、スタートドライバーの大嶋は最後方からの追い上げながら、上位陣と遜色の無いラップタイムを刻んでポジションを回復していく。8番手まで追い上げて31周目のピットインをこなしたENEOS SUSTINA RC Fは、13番手でレース復帰後、国本のドライブでポイント圏内の10番手まで追い上げていた矢先の51周目、突然最終コーナー立ち上がりでシフト不良に起因する駆動系トラブルに見舞われ、ストレートエンドでストップ。最後まで不運から逃れられなかったLEXUS TEAM LeMans ENEOSは、速さを見せながらも無念のリタイアに終わった。

大嶋和也のコメント

38kgというウエイトハンデを考えると、自分たちのクルマのパフォーマンスを考えると、今回は優勝という結果に手が届く可能性がある、と思ってレースウィークを迎えました。事実、最初の公式練習では一時トップタイムを刻むなど手応えはあったのですが、ミスやトラブルが続いてしまって……。決勝ではピットスタートながらも、タイヤを劣りつつ良いペースで周回しポイント圏内まで追い上げた矢先のリタイアという結果は凄く悔しいですし、その後のレースでセーフティーカーが入ったことを考えると、トップ6は確実だったと思うと残念ですが、現状で勝つために足りないものがたくさんあるのだと捉え、次の菅生に向けて頑張ります。

国本雄資のコメント

決勝の自分のステイントで追い上げていた矢先、少し前からエンジンパワーが落ちて来たように感じていたところ、シケインで突然4速にシフトがスタック、直後のストレートでエンジンの駆動が伝わらなくなってしまいました。自分が予選で失敗してしまったことで全体的な流れを悪くしてしまったと感じています。クルマには速さがありましたし、流れを掴めてさえいれば確実に良い結果が残せていたはずなので悔しいですが、菅生で100%自分の力を発揮出来るようにしっかり準備をしたいと思います。

土沼監督のコメント

走り始めの公式練習では、ほとんどクルマに手を加えることなくトップタイムが刻めるほど好調だったのですが、その後流れにまったく乗れなかった週末でした。ピットスタートを強いられましたが、そこから追い上げて、セーフティーカーでも入れば充分勝負になると読んでいただけに、その展開を活かす前にリタイアとなってしまい残念です。次の菅生で結果を残すべく、しっかりと準備してレースウィークに臨みます。

